

梅小路公園

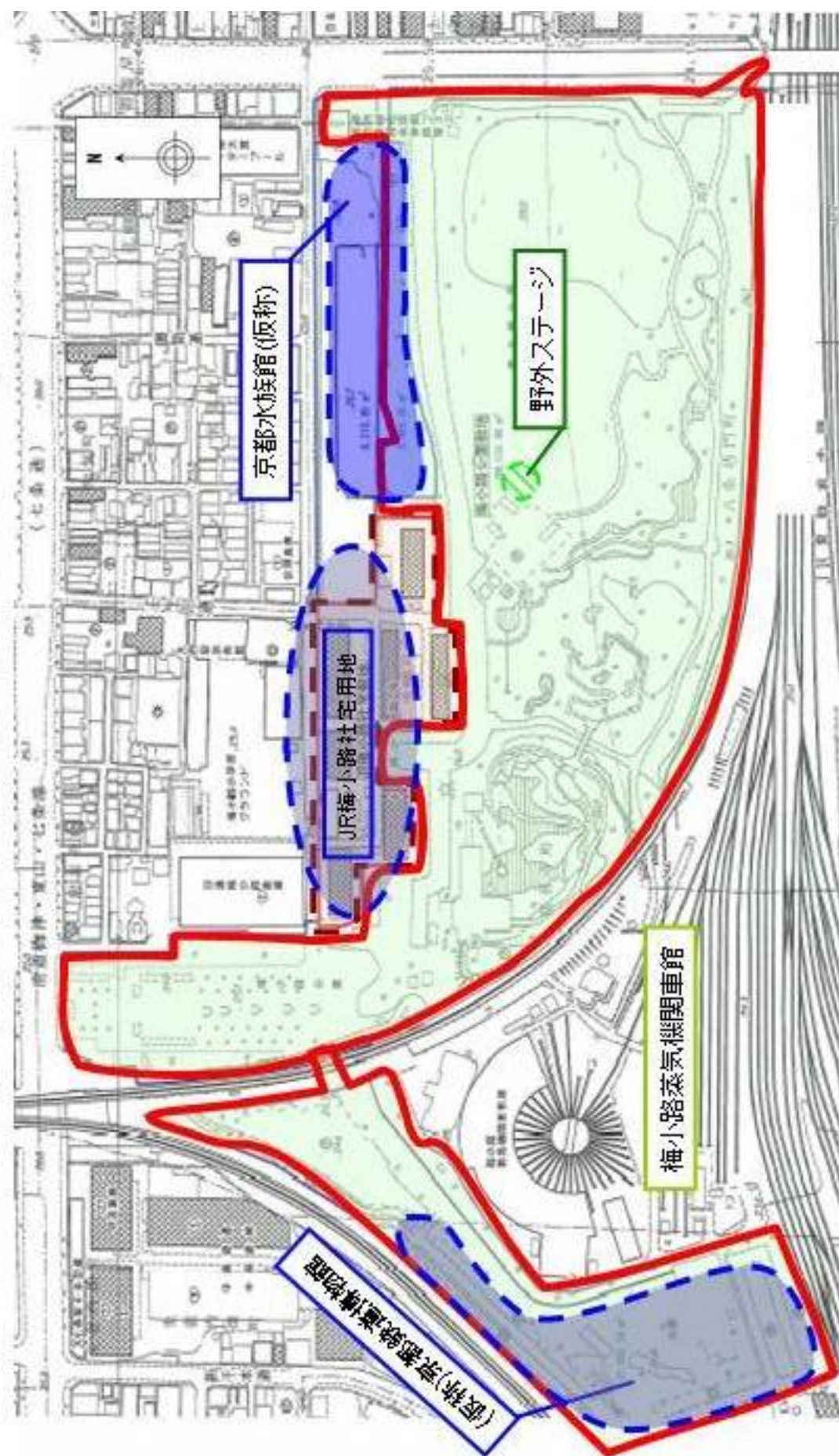
再整備の方向性（案）

～地域活性化の核として公園の魅力が向上～

京都市では、この度、民間事業者から提案を受けた「京都水族館（仮称）」、「（仮称）京都鉄道博物館」や、本市が屋外における文化芸術活動の拠点として整備する「野外ステージ」によって、新たな魅力が加わる梅小路公園が、より一層、市民の皆様や観光客から愛されるとともに、地域活性化の核となることを目指し、「梅小路公園再整備の方向性（案）」をまとめました。

これは、梅小路公園の再整備についての本市の基本的な考え方を3つの「基本理念」と6つの「基本方針」に整理したもので、本市では、今後、再整備の方向性（案）をより充実させていくとともに、市民の皆様からの御意見を踏まえ、諸課題の解決に取り組みながら再整備に向けた具体化を図っていきます。

梅小路公園施設設置予定図



1 はじめに

梅小路公園は、京都市の中心市街地に位置し、岡崎公園と並び総合公園として、都市部における貴重な緑と、オープンスペースを担保するとともに、憩いの場の創出、各種イベントや蒸気機関車館での体験学習等、総合的なレクリエーションを通じて、京都市民のみならず市外の方々からも広く親しまれ、本市における中心的な公園としての役割を担っています。

民間事業者から提案を受けた京都水族館（仮称）整備構想と（仮称）京都鉄道博物館整備構想は、ともに都市公園法上の「公園施設（教養施設）」に位置付けられるものであり、当公園の機能拡大はもとより、周辺地域活性化に寄与することが大いに期待されるところです。

そこで、これらの施設の整備によって新たな魅力が加わる梅小路公園が、より一層、市民、観光客から愛されるとともに、地域活性化の核となることを目指し、その再整備の方向性を明らかにするものです。

京都水族館（仮称）整備構想の概要	
設置場所	梅小路公園に隣接する京神倉庫跡地及び園内のメイン園路北側区域の一部（現在、イベント会場やバックヤードとして利用しているスペースを活用）
構造	鉄筋コンクリート造、地上3階建て
面積	敷地面積：約 10,000 m ² 、延床面積：約 14,000 m ² （梅小路公園の面積：117,133 m ² ）
特徴	国内最大級の内陸型水族館 環境共生型水族館 地域に愛される水族館
年間入場者数	約 200 万人（オリックス不動産(株)による開業初年度の需要予測）
開業予定	平成 23 年度
設置・運営主体	オリックス不動産株式会社

（仮称）京都鉄道博物館整備構想の概要	
設置場所	梅小路蒸気機関車館西側隣接地
構造	未定
面積	未定
特徴	鉄道を中心とした博物館 梅小路蒸気機関車館との総合的な演出を図る。
年間入場者数	未定（参考 平成 19 年度入場者数：梅小路蒸気機関車館 22.5 万人、交通科学博物館（大阪市）30.5 万人）
開業予定	平成 26 年度～27 年度頃
設置・運営主体	西日本旅客鉄道株式会社

2 再整備の基本的な考え方について

(1) 基本理念

京都市は京都議定書誕生の地であり、環境モデル都市です。再整備に際しては、環境負荷の一層の低減を図るなど、地球温暖化防止に積極的に取り組むとともに、「歩くまち・京都」を推進することを視点とします。

また、梅小路公園は、平安建都1200年を記念し、「都心の緑の創造」、「歴史の継承と未来への飛躍」、「緑の文化の発信」をテーマに整備された公園です。このテーマを大切に次世代へ継承するとともに、新しいエデュテインメント施設ともなる文化・観光施設が提案されたことを受け、公園・周辺地域・京都市全域の活性化へつなげていくことが重要です。

これらを念頭に、次の3つの理念の下に梅小路公園の再整備を進めます。

「地域活性化の核」となる賑わい・交流の場の創出

「水族館」、「鉄道博物館」の導入により見込まれる、広域からの観光客を周辺地域へ誘引し、地域全体を活性化する核となる公園を目指します。更に、京都市を代表する総合公園としてだけでなく、地域の身近な公園として愛され、住民の参加や、様々な市民活動によって賑わう交流の場を創出することを目指します。

多様な「いのちの輝き・つながり」を学ぶ都心のオアシスの充実

JR梅小路駅貨物跡地に創出した「いのちの森」に象徴される都心の貴重な「緑」を守り育て、ヒートアイランド現象の抑制に努めます。更に、森・都市・海のストーリー性を持たせ、昆虫や草花のすみかとなる「いのちの森」、市民の活動の場となる「芝生広場」、海の生物の生態を見せる「水族館」の設置によって、多様な生物の「いのちの輝き・つながり」を感じ、学べる場としての機能を充実することを目指します。

京都力を代表する「文化」を継承・発展する拠点の創出

下京区制130周年記念として整備する「野外ステージ」は、草の根や若者などの文化芸術活動の振興に資するものです。また、公園のシンボルである「朱雀の庭」は、京都の庭園文化（緑の文化）を代表するものであり、庭園を使った芸術活動の促進により、その精神を後世に大切に継承します。更に、京都に根付いた梅小路蒸気機関車館に隣接する「鉄道博物館」の設置により、近代文明を表象する鉄道文化を具現化します。これらの施設により、総合公園としての文化的機能を拡充させ、更に東本願寺、西本願寺、東寺など周辺地域の歴史文化資源との連携を強化することで、京都が持つ最大の特性である「文化」を継承・発展する拠点の創出を目指します。

野外ステージの整備概要	
設置場所	梅小路公園芝生広場西側中央広場
施設規模	308㎡（ステージ部分22m×14m）
開設予定	平成22年3月
事業費	36,000千円
設置・運営主体	京都市

（2）基本方針

① アクセスの確保

ア 歩くまち京都の推進

- ・ 増加が予想される公園利用者の交通手段については、歩いて楽しいまちづくり（「歩くまち・京都」）を実現するため、第一に徒歩や自転車の利用、第二に京都駅や大宮駅からの市バスの利用を促進します。
- ・ 地域生活の安心・安全の確保に配慮し、自家用車による来園抑制や、デザインを工夫した標識、案内図を各所に設置することにより、分かりやすく、歩いて楽しい歩行者ルートの確保に努めます。
- ・ シャトルバス等の新たな公共交通機関の導入を図ります。

イ 駐車場の整備

- ・ 駐車場の整備は必要最低限に止めます。
- ・ 普通車用駐車場は、JR社宅用地の一部、JR山陰連絡線西側公園予定地等を候補地として検討を進めます。また、大型バス用駐車場は、既存の大型バス駐車場を活用します。
- ・ 来園者の周辺施設への回遊性をより一層高めるため、周辺における駐車場の確保についても検討を進めます。

ウ 駐輪場の整備

- ・ 自転車やバイクなどの駐輪用施設を大宮入口広場及び七条入口広場付近に設置します。

エ 玄関口の整備

- ・ 七条通に面している七条入口広場は、公園の主要な入口となるものであり、シャトルバスの乗降場やタクシートの降車場を設けるとともに、公共交通機関を利用する来園者の入口として機能を強化します。
- ・ 大宮入口広場は、大宮通に面した主要な入口であり、京都駅から徒歩で来園される利用者を心からもてなす、レセプションエリアとします。

② 緑環境の向上

都心のオアシスとして、芝生広場、朱雀の庭、及びいのちの森を中心とする豊かな緑を保全しながら、本市が取り組む新たな施設整備においても、緑を積極的に導入し、良好な環境の向上に努めます。

また、民間事業者が施設を設置する際においても、梅小路公園が育んできた緑・水・生物・大気などの良質な環境を守り、新たな施設の設置により生じる環境負荷の一層の低減に努めるなど、京都市とともに使命感を共有して事業を進めることとし、京都市が行う地球温暖化防止に向けた活動に積極的に参加・協力を行うこととします。

③ 良好な景観の形成

「市街地型美観形成地区」に指定された当公園全体の再整備を進めるため、民間事業者の施設整備に当たっては、公園や周囲のまち並みと調和した良好な景観となるように指導します。

具体的には、朱雀の庭やいのちの森などの豊かな緑、並びに伸びやかな芝生広場の空間と建物を調和させ、圧迫感を感じさせないよう、建物の構造、意匠、色彩、植栽等にも十分配慮し、公園空間全体の景観に配慮したデザインとなるよう指導します。

④ 防災機能の向上

当公園は、京都市地域防災計画上の広域避難場所として位置付けられていることから、公園区域の拡張や周辺施設との連携により、広域避難場所としての区域拡大を図ります。また、災害時には、芝生広場が避難活動や救援活動を行うオープンスペースとなることから、民間事業者が整備する施設については、災害時には公園全体の防災拠点として屋内施設を利用できるよう事業者と提携するなど、公園全体の防災機能強化を図ることとします。

⑤ 安全な動線の確保

公園内の利用者動線は、七条出入口、大宮北出入口及び大宮南出入口をメイン入口とし、既存の動線を基本として、機能上問題のない安全な動線の確保に努めます。

また、普通車動線及びシャトルバス・タクシーについても、七条通から入退場することとし、機能上問題のない安全な動線の確保に努めます。

⑥ 周辺施設との連携による地域の活性化

公園内の魅力あふれる施設と、周辺に立地する七条通商店街、中央卸売市場などの商業施設、また、東本願寺、西本願寺、東寺などの歴史文化資源等とのネットワークにより、観光客の周遊性を高め、地域の活性化を図ります。

(3) 今後の予定

- 野外ステージ：平成22年3月 完成予定
- 水族館：平成23年度 開業予定
- 鉄道博物館：平成26年度～27年度頃 開業予定

(参 考)

1 梅小路公園の概要

京都市が平安建都1200年記念事業として整備した都市公園です。都心部に位置しながら豊かな緑を満喫できる憩いの空間として、市民に広く親しまれています。災害時の広域避難場所としての機能も併せ持ちます。

- 所在地 京都市下京区観喜寺町 他 (JR京都駅から西へ徒歩約15分)
- 面積 117,133㎡
- 開設年月日 平成7年4月29日
- 主要施設等 いのちの森(約10,000㎡), 芝生広場(約25,000㎡), 朱雀の庭, 緑の館, ふれあい広場, チンチン電車, 河原遊び場, 七条入口広場, 駐車場
- 管理運営 財団法人京都市都市緑化協会

2 京都水族館(仮称)整備構想の経過

平成20年7月14日にオリックス不動産株式会社から「京都水族館(仮称)整備構想」の提案を受け、同年7月16日の市長記者会見において、提案を受けたこと及び提案内容を公表しました。

その後、学識経験者等による第三者委員会「京都水族館(仮称)整備構想検討委員会」を設置して、公園施設の設置許可の妥当性について諮問を行い、同年12月24日に同委員会から一定の条件を付したうえで「設置許可は妥当」との答申を受領し、現在、事業者との協議を進めています。

なお、事業者が事業計画を検討するにあたり、建設予定地(京神倉庫跡地等)の状況を把握するため、平成21年3月下旬から5月にかけて、測量や埋蔵文化財試掘調査等が行われました。

3 (仮称)京都鉄道博物館の経過

梅小路蒸気機関車館(京都市)と交通科学博物館(大阪市)の両博物館を運営している、西日本旅客鉄道株式会社から、今後、博物館活動の更なる活性化のために、梅小路公園内(梅小路蒸気機関車館西側隣接地)に「(仮称)京都鉄道博物館」を設置したいとの提案が平成21年2月23日にあり、同日、公表しました。

2009年（平成21年）6月発行

京都市印刷物 第214239号

発行 京都市建設局水と緑環境部緑政課

所在地 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

電話 075-222-3589

FAX 075-212-8704

ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/soshiki/10-4-1-0-0.html>

電子メール ryokusei@city.kyoto.jp